

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	
平成24年4月4日入学式学長式辞	2
平成24年度入学者数	3
平成23年度医学博士授与者（前期・後期）	3
○ 人 事	
役員・新任室長等・新任教授・新任准教授・新任講師・新任課長等	5
新任あいさつ	6
・理事（復興・地域医療担当） 横山 齐	
・医学部免疫学講座 教授 関根 英治	
・医学部公衆衛生学講座 特命教授 佐藤 哲志	
・医学部泌尿器科学講座 教授 小島 祥敬	
・がんプロフェSSIONAL養成プラン 特任教授 石田 卓	
・放射線医学県民健康管理センター 特命教授 松井 史郎	
・放射線医学県民健康管理センター 特命教授 柴田 義貞	
・放射線医学県民健康管理センター 特命教授 松井 秀幸	
・会津医療センター準備室 室長 高久 史磨	
・会津医療センター準備室 医鑑 鶴谷 善夫	
○ 諸 規 程 改 正	
平成24年2月から平成24年7月までの主な諸規程の制定改廃関係	10
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	
役員会	11
経営審議会	12
教育研究審議会	12
医学部教授会	12
看護学部教授会	13
○ 雑 報	
寄附講座の開設について	13
学生の部活動報告（新極真空手部）	14
チェロの寄贈について	15

学 事

■ 平成24年4月4日 福島県立医科大学 入学式

学長式辞

福島県立医科大学 学長 菊地 臣 一

去年の3月11日を境に、世の中は変わってしまいました。我々は今、「如何に生きるか」という死生観を一人一人が問われています。

そんな世情の中、本日、福島県立医科大学大学院及び大学に入学を許可されました諸君、誠におめでとうございませう。本学は今、原発事故という過去に例をみない惨禍との闘いの最前線に立っています。そこでは県民、国民、そして人類の健康問題に一丸となって取り組んでいます。

君達は、本学に入学するかどうか随分悩まれたであろうことは想像に難くありません。それだけに、教職員一同、君達の入学を心から歓迎いたします。先人の叡智は、困難に直面した時、それを「悪いこと」とは嘆かず、「自らを鍛える良い機会」と捉えて、その困難と闘うことの大切さを説いています。君達は、今、先人の箴言、そして生きる目標を世間の空気ではなく、自分の価値観に従ってここに居るのだと、私は確信しています。

私たちは、君達が本学で学ぶという決意が間違っていないことを明らかにするために、全力で支援することを約束します。

入学式とは「未来への覚悟」を表明する場です。君達は、医療人になる、そして史上初めての原発事故に対する健康管理という、誰も踏み入れたことのない闘いに、何らかの形で関わっていくという覚悟を持ってこの入学式に臨んでいると思います。今日、新たな一歩を踏み出した君達、本学での出会いを大切にしてください。人生は出会いに尽きます。何故なら、“人生の扉は他人が開く”からです。どの出会いが自分にとって大切かはその時は分かりません。だからこそ、一人一人の出会いに真摯に向き合うことが大切です。出会いは自分を成長させ、そして人生を豊かにしてくれます。「出会い」に運命的な出会いなどというものではなく、出会った後に、お互いが相手に信頼と敬意を持って接する長い日々の営みの積み重ねが絆をつくり、その結果が「掛け替えのない友や恩師」を作っていくのです。

不条理と矛盾に満ちた現代の医療や看護の現場において、プロとしての医療人に求められるのは、共感の提示と病める人々を包容できる全人的な豊かさです。医療人として求められるプロフェッショナルリズムとは、まず、目的に対する単純強固な意志です。第二に、低い水準における満足感の拒否です。第三に、栄光の影の骨身を削る努力です。最

後に、自らの努力無くして人生の果実を期待しないことです。このプロの精神を、これからの学びの日々、胸に刻んで学生生活を送って下さい。

この瞬間から、君達は「何になったか」ではなく「何をしたか」が問われるのです。その過程では、我々は、何かを獲得しようとする時には、同じだけ何かを捨てなければなりません。そこでは、諸君は自らに問います。自分の人生観はどちらを選ぶのかと。その選択基準は、医療人としての最後に「自分は誇りを持って、ぶれずに生きてきたか」という自らへの問い掛けです。

学びの日々の中で、君達はこれから様々な挫折を味わう筈です。でも、恐れたり怯むことはありません。人間は、皆失敗しながら生きているのです。そのうえ、もっと酷い失敗も起こります。そして、幾ばくかの苦悩や喪失を日々繰り返しているのが人生です。でも、皆自分なりのベストを尽くして生きているというのが世の中です。大切なことは、日々遭遇する、目の前の一つ一つに、逃げずに愚直に向き合うことです。日々のひた向きな生き方の積み重ねが、その後の自分を形づくっていくのです。「挫折の数だけ強く、そして優しくなれる」ことを信じて研鑽に励んで下さい。

人間というものは、人生が配ってくれたカードでやっていくもので、配られたカードが悪いと愚痴をこぼしたりするものではありません。人生こうしようああしようと計画を立てて、自分の人生を考えても、その通りになることはありません。殆ど違った方向へ行ってしまうのです。でも、大切なことは、その場その場で自分のベストを尽くすことです。

私の医師としての経験から、世の中には変わるものも多いが、変わらないものも少なくない、というのが実感です。その中から君達に三つの言葉を贈ります。一つは、「愚直なる継続」です。これを実行するには鉄のような意志が必要です。何でもよいですから、毎日継続できるものを選んで取り組んでみてください。プロとしての医療人になる為の修業では、愚直なる継続が最大の武器であり、大成する王道です。

もう一つは「修業とは矛盾に耐えること」です。それに耐えられなければ医療のプロとして一人前にはなれません。「修業」の場では多少の矛盾や不条理に耐えていくことが求められます。修業や人生とは、「さまざまな厄介ごとの中を、折り合いをつけて生き抜いていく場」という認識と覚悟を持って歩むことです。先輩や教師は、君達がひたむきに努力している姿をみると、君達を愛しく思い、教え育もうという熱意を持てるのです。双方の熱意がぶつかり合って初めて、「人生の扉は他人が開く」という言葉が君達の前に表れるのです。

最後に、「誇り」です。誇りは、人生の道々で出会うであろう様々な苦難に立ち向かうとき、自分を支えてくれる最大、そして唯一の拠り所になります。頭を下げないことが「誇り」ではなく、頭を下げた後に残るものが真の「誇

り」です。誇りは、人生の道々で出会うであろう様々な苦難に立ち向かうとき、自分を支えてくれる最大の心の拠り所になります。

「外形は内容を規定する」という箴言があります。君達がこれから身につける白衣は、着る者に小さな覚悟を強めます。白衣は君達に誇りを持つこと、そして厳しさに耐えることを求めています。

福島県立医科大学は、明治の白河医術講義所にその源を発し、母体となった福島県立女子医学専門学校が創立されて以来、六十有余年の歴史があります。そして今、原発事故に対して国民や県民の健康を守り、我々が得た知見を世界に発信していくという新たな歴史的使命を負っています。君達の、そして福島県立医科大学の歴史的な使命に新たな頁を書き足すのは、君達自身なのです。大きな可能性を秘めた君達の、今日からの精進を期待しています。

■ 平成24年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生125名

	男	女	計
県内	44名	18名	62名
県外	42名	21名	63名
計	86名	39名	125名

② 看護学部新入生84名

	男	女	計
県内	9名	62名	71名
県外	1名	12名	13名
計	10名	74名	84名

③ 大学院新入生39名

	男	女	計
医学研究科(博士)4月入学	18名	3名	21名
医学研究科(博士)10月入学	3名	2名	5名
医学研究科(修士)	0名	4名	4名
看護学研究科(修士)	1名	8名	9名
計	22名	17名	39名

■ 平成23年度医学博士授与者

前期〔平成23年9月授与〕

氏名	学位論文名
齋藤 元伸	Targeted Disruption of Ing2 Results in Defective Spermatogenesis and Development of Soft-Tissue Sarcomas (Ing2欠損マウスは精子形成異常と軟部組織肉腫発生をもたらす)
板垣俊太郎	Event-Related Potentials in Patients with Adult Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder versus Schizophrenia (成人期の注意欠陥/多動性障害 (adult AD/HD) 患者群の事象関連電位 (ERPs) の健常者群と統合失調症患者群との比較検討)
佐久間寛之	Improvement in social skills in patients with schizophrenia following 6 months of psychiatric daycare treatment (6ヶ月の精神科デイケア施行による統合失調症の生活技能の改善)
宮本 保久	統合失調症の受信技能の評価と送信技能や認知機能との関連について
安藤 勝也	Crucial Role of Membrane Type I Matrix Metalloproteinase (MT1-MMP) in RhoA/Rac1-Dependent Signaling Pathways in Thrombin-Stimulated Endothelial Cells (トロンビン刺激血管内皮細胞におけるRhoAおよびRac1の活性化とそれらの下流シグナルにおけるMembrane Type I Matrix Metalloproteinase (MT1-MMP)の役割に関する研究)
岩崎 充晴	日本人女性における膀胱癌発生の危険因子 -骨盤MRIによる検討-

後期〔平成24年3月授与〕

氏名	学位論文名
遠藤 久仁	Phase I Trial of Preoperative Intratumoral Injection of Immature Dendritic Cells and OK-432 for Resectable Pancreatic Cancer Patients (膵癌への未熟樹状細胞とOK-432の術前腫瘍内局注に関する第一相試験)
榎本 雪	Quadripulse transcranial magnetic stimulation (QPS)の安全性と1次感覚野への影響に関する研究
金子知香子	Time to presenting to hospital and associated factors in stroke patients: a hospital-based study in Japan

<p>(脳梗塞患者の受診までの時間に関連する要因：日本における一病院での検討)</p>	
<p>三阪 智史 Senescence marker protein 30 inhibits angiotensin II-induced cardiac remodeling (加齢指標タンパク質 SMP30 は、アンジオテンシン II 誘導性の心臓リモデリングを抑制する)</p>	<p>安藤 仁 大腸癌における TBX19 (T-box19) の臨床病理学的検討</p>
<p>海老 潤子 脳転移に対する全脳照射後の予後と白質脳症について</p>	<p>松本 純弥 Analyses of postmortem brains from patients with schizophrenia: Imaging mass spectrometry-based study (質量顕微鏡法による統合失調症死後脳解析)</p>
<p>長谷川剛生 Prognostic impact of peripheral and local Foxp3+ regulatory T cells in patients with non-small cell lung cancer (肺癌組織および患者末梢血中の制御性T細胞の解析とその臨床的意義の検討)</p>	<p>小島 彰 中心性漿液性脈絡網膜症における眼底自発蛍光を用いた視物質密度計測</p>
<p>古林 俊晃 Cortical hemoglobin concentration changes underneath the coil after single-pulse transcranial magnetic stimulation: A near-infrared spectroscopy (NIRS) study (ヒト大脳運動野上の単発磁気刺激によるコイル直下の皮質血流変動：近赤外線分光法を用いた解析)</p>	<p>上杉 和秀 Lumbar Spinal Stenosis associated with Peripheral Arterial Disease: A prospective multicenter observational study (末梢動脈疾患を合併した腰部脊柱管狭窄：多施設共同前方視的観察研究)</p>
<p>齋藤 智子 Self-perception of glycemic control among Japanese type 2 diabetic patients: Accuracy of patient perception and characteristics of patients with misperception (2型糖尿病患者の血糖コントロールに関する自己認識－患者の「認識の正確さ」と「誤った認識をもつ患者の特性」についての検討－)</p>	<p>高橋 健次 Hypoxic stress induces TRPM2 channel expression in adult rat cardiac fibroblasts (ラット心線維芽細胞における低酸素刺激による TRPM2 チャンネルの発現誘導)</p>
<p>長谷川美規 Community-based exercise program reduces knee pain in elderly Japanese women at high risk of requiring long-term care: A non-randomized controlled trail (介護予防「運動器の機能向上プログラム」は要介護ハイリスク高齢日本人女性の膝痛を減少する：非ランダム化比較試験)</p>	<p>齋藤 弘晴 The effect of selective serotonin reuptake inhibitor (SSRI) on pain-related behavior in a rat model of neuropathic pain (ラット神経因性疼痛モデルにおける疼痛関連行動への選択的セロトニン再取り込阻害薬の影響)</p>
<p>西澤 佳代 線条体淡蒼球路を介する刺激弁別学習の制御</p>	<p>阿部 優作 麻疹ウイルス脳内持続感染ヌードマウスモデルを用いた亜急性硬化性全脳炎発症機序の解明</p>
<p>立花和之進 大腸癌における Dipeptidase 1 発現の臨床病理学的検討</p>	<p>近藤 剛史 片眼性滲出型加齢黄斑変性僚眼の自発蛍光</p>
<p>岡野 舞子 Increased Annexin A1 expression promotes cellular invasion and is associated with recurrences in breast cancer (アネキシン A 1 の発現が増加することは乳癌における細胞の浸潤や再発と関係している)</p>	<p>松田 希 神経筋疾患における骨格筋 MRI の臨床応用</p>
<p>小野朋二郎 The clinical impact of thymidylate synthase and excision repair cross-complementing 1 to predict for the efficacy of FOLFOX treatment in colorectal cancer patients with liver metastasis</p>	<p>飯田 裕司 Transfer of the muscle relaxant, vecuronium, to bone marrow fluid from bone marrow donors (骨髄ドナーの採取骨髄液中への筋弛緩薬ベクロニウムの移行)</p>
	<p>福原 敦朗 Validation Study of Asthma Screening Criteria Based on Subjective Symptoms and Fractional Exhaled Nitric Oxide (自覚症状と呼気一酸化窒素濃度測定のみによる喘息スクリーニング基準の有用性の検討)</p>
	<p>大杉 純 Hypoxia and Lung Cancer-Prognostic impact of HIF-1α-responsive microRNA-210 in patients with lung adenocarcinoma (非小細胞肺癌における HIF-1α と miR-210 の関連性と臨床的意義)</p>

<p>和田 明 Increased ratio of calcineurin immunoreactive neurons in the caudate nucleus of patients with schizophrenia (統合失調症死後脳尾状核においてカルシニューリン免疫陽性ニューロンの割合が増加している)</p> <p>後藤 大介 臺式簡易客観的精神指標 (UBOM) の臨床上の有用性と課題 - GHQ12 項目版との比較から -</p> <p>郷 勇人 早産児の全血球中におけるグルココルチコイド受容体の発現に関する検討</p>	<p>採用 H24.4.1 会津医療センター準備室 教授 新妻 一直</p> <p>昇任 H24.4.1 会津医療センター準備室 教授 富樫 一智</p> <p>昇任 H24.4.1 会津医療センター準備室 教授 塚本 和久</p> <p>採用 H24.5.1 泌尿器科学講座 教授 小島 祥敬</p> <p>採用 H24.7.10 放射線医学県民健康管理センター 特命教授 松井 秀幸</p> <p>昇任 H24.8.1 免疫学講座 教授 関根 英治</p> <p>採用 H24.8.1 公衆衛生学講座 特命教授 佐藤 哲志</p>
<h2 style="margin: 0;">人 事</h2> <p style="margin: 0;">(平成24年8月1日現在)</p>	
<p>◎役員</p> <p>H24.4.1 副理事長 (企画・人材開発担当) 竹之下誠一</p> <p>H24.4.1 理事 (教育研究・県民健康管理担当) 阿部 正文</p> <p>H24.4.1 理事 (経営・渉外担当) 梅津 茂己</p> <p>H24.4.1 理事 (医療担当) 棟方 充</p> <p>H24.4.1 理事 (復興・地域医療担当) 横山 齐</p> <p>H24.4.1 理事 (管理運営担当) 藤島 初男</p> <p>H24.4.1 監事 佐藤 喜一</p> <p>H24.4.1 監事 菅野 俊幸</p>	
<p>◎新任室長等</p> <p>採用 H24.4.1 会津医療センター準備室 室長 高久 史磨</p> <p>採用 H24.6.12 会津医療センター準備室 副室長 室井 勝</p>	
<p>◎新任教授</p> <p>採用 H24.4.1 創薬関連トランスレーショナルリサーチ部門 教授 磯貝 隆夫</p> <p>採用 H24.4.1 創薬関連トランスレーショナルリサーチ部門 教授 家村俊一郎</p> <p>採用 H24.4.1 創薬関連トランスレーショナルリサーチ部門 教授 片平 清昭</p> <p>採用 H24.4.1 災害医療支援講座 教授 小柴 貴明</p> <p>採用 H24.4.1 周産期・小児医療支援講座 教授 桃井 伸緒</p> <p>採用 H24.4.1 放射線医学県民健康管理センター 特命教授 松井 史郎</p> <p>採用 H24.4.1 放射線医学県民健康管理センター 特命教授 柴田 義貞</p> <p>採用 H24.4.1 会津医療センター準備室 教授 鶴谷 善夫</p> <p>採用 H24.4.1 会津医療センター準備室 教授 丹羽 真一</p> <p>採用 H24.4.1 会津医療センター準備室 教授 鈴木 啓二</p>	
<p>◎新任准教授</p> <p>採用 H24.4.1 創薬関連トランスレーショナルリサーチ部門 准教授 高木 基樹</p> <p>採用 H24.4.1 創薬関連トランスレーショナルリサーチ部門 准教授 江崎 淳二</p> <p>採用 H24.4.1 創薬関連トランスレーショナルリサーチ部門 准教授 原 孝光</p> <p>採用 H24.4.1 慢性腎臓病 (CKD) 病態治療学講座 准教授 旭 浩一</p> <p>採用 H24.4.1 災害医療支援講座 准教授 小鷹 昌明</p> <p>採用 H24.4.1 災害医療支援講座 准教授 松山 純子</p> <p>昇任 H24.4.1 整形外科科学講座 准教授 穴戸 裕章</p> <p>昇任 H24.4.1 附属実験動物研究施設 准教授 関口 美穂</p> <p>採用 H24.4.1 人工透析センター 特命准教授 寺脇 博之</p> <p>採用 H24.4.1 会津医療センター準備室 准教授 遠藤 俊吾</p> <p>昇任 H24.7.1 泌尿器科学講座 准教授 相川 健</p> <p>昇任 H24.7.1 麻酔科学講座 准教授 五十洲 剛</p> <p>昇任 H24.8.1 輸血・移植免疫学講座 准教授 ケネス E. ノレット</p>	
<p>◎新任講師</p> <p>採用 H24.4.1 災害医療支援講座 講師 久村 正樹</p> <p>採用 H24.4.1 医療人育成・支援センター 講師 熊谷 敦史</p> <p>昇任 H24.4.1 神経内科学講座 講師 星 明彦</p> <p>昇任 H24.4.1 整形外科科学講座 講師 江尻 莊一</p> <p>昇任 H24.4.1 産科婦人科学講座 講師 添田 周</p> <p>昇任 H24.4.1 周産期・小児医療支援講座 講師 菅沼 亮太</p> <p>昇任 H24.4.1 リハビリテーションセンター 講師 大内 一夫</p> <p>採用 H24.4.1 療養支援看護学部門 講師 脇屋友美子</p> <p>採用 H24.4.1 療養支援看護学部門 講師 中島 淑恵</p> <p>昇任 H24.5.1 基礎病理学講座 講師 富川 直樹</p> <p>昇任 H24.5.1 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座 講師 林 義満</p> <p>採用 H24.7.1 輸血・移植免疫学講座 講師 鈴木 裕子</p> <p>昇任 H24.7.1 麻酔科学講座 講師 佐藤 薫</p> <p>昇任 H24.7.1 麻酔科学講座 講師 小原 伸樹</p> <p>昇任 H24.8.1 生体機能研究部門 講師 加藤 成樹</p>	

◎新任課長等

転入 H24.4.1	事務局	事務局次長	須藤 浩光
転入 H24.4.1	総務課	課長	玉川 芳明
転入 H24.4.1	健康調査課	課長	後藤 隆
転入 H24.4.1	学生課	課長	高木 正弘
発令 H24.4.1	医事課	課長	仁志 宏
転入 H24.4.1	復興事業推進室	室長	安達 和久
転入 H24.4.1	医療連携・相談室	室長	吉田 清一
転入 H24.4.1	総務課	主幹兼副課長	齋藤幸太郎
転入 H24.4.1	復興事業推進室	主幹	村上 利通
転入 H24.4.1	学生課	主幹兼副課長	宗田 茂
採用 H24.4.1	企画財務課	副課長	森谷 三康
採用 H24.4.1	健康調査課	副課長	渡邊日出夫
昇任 H24.4.1	看護部	副部長（業務担当）	牧野 恵子

■ 新任あいさつ



**復興・地域医療担当理事就任
ごあいさつ**
— Fukushima 復興の人類史的意義：
悲劇を奇跡に—

理事（復興・地域医療担当）

横山 斉

東日本大震災で、福島県は地震・津波・原発事故という人類史上初めての複合災害を受けた。悲劇は広範囲に渡り、長期に及ぶ。原発事故による環境汚染は、原子力という「プロメテウスの火」を手に入れた人類にとって、今後も地球上どこにでも起きる試練であり、まさに「パンドラの箱」から地上に放たれた厄災である。福島の復興は、人類が与えられた試練に如何に立ち向かうかという人類史的意味を持っている。いま我々が手にしているものはパンドラの箱にひとつ残された「希望」と英知、そして困難に挑戦し続ける意思のみである。

日本社会は右肩上がりの高度経済成長時代に終りを告げ、人口減少・内需縮小・雇用不安を伴う新たな混迷の時代に突入する。日本社会も自らの意思と実行力で変革へ向けて大きく舵を切ることができるのであろうか？ まさにこの時代の転換期に、高度経済成長の象徴である原子力発電所に天災が降りかかり、Fukushima は新たな時代を自ら切り開く使命を与えられた。

原子力災害が人類の生み出した人災であるならば、この悲劇を乗り越え奇跡を生み出す力もまた、人類は自らの手にしているはずである。新時代を切り開く変革と復興のビジョンに基づいた実効的アクションプランを、次世代を担う若者たちと着実に実現させてゆく大学のマネジメント力と実

行力こそが今まさに求められている。Fukushima の変革と復興は、21世紀の日本と世界を占う試金石である。本学は今、Fukushima 復興の拠点として開学以来最大の正念場を迎えている。

**教授就任のご挨拶**

医学部免疫学講座

教授 **関根 英治**

このたび、平成24年8月1日をもちまして、医学部免疫学講座の教授に就任致しました。

私は平成5年に本学を卒業後、自己免疫疾患の病態解明と治療に取り組むべく、大学院生として消化器・リウマチ膠原病内科（旧第二内科）に入局しました。大学院修了後、県内一般病院での臨床研修を経て、平成12年より米国サウスカロライナ医科大学リウマチ・免疫学部門に自己免疫疾患の基礎研究を行うため留学しました。一度診療医として帰局しましたが、平成15年より faculty として再度同大学に渡米。平成21年、本学の免疫学講座に復帰し、現在に至っております。現在まで自己抗体産生や糸球体腎炎、肉芽腫性臓器障害へ至る機序に関する研究を、自己免疫疾患のモデルマウス（MRL/lpr マウス）を用いて行っています。研究を通じて、ループス腎炎への補体の関与や、補体第2経路を選択的に標的とする補体抑制融合タンパクの開発、MHC class II 分子と疾患特異的自己抗体産生との関連、抗体のクラススイッチに関与する分子の同定、新しい肉芽腫性疾患モデルマウスの開発などを行ってきました。

本学における私の使命は、医学研究と医学教育です。特に医学教育は、震災後大きく変化した社会環境のニーズに適應できる医師を育てるものでなければならぬと考えております。それに応えることができる医師の育成には、医学部学生時代からの教育が重要であり、その教育には少なくとも2つのキーポイントがあると考えております。一つ目は、高い志を有して入学してくる医学生に対し、医学への入門の動機づけを早期に行うことであり、その時期にあたる総合科学教育の充実が、モチベーションの維持に、そして地域社会ニーズの理解に重要と考えています。二つ目は、自ら課題を発見し、解決できる能力を身につける訓練を早期から実施することです。こうした教育は、先の震災で経験したような前例のない事態に遭遇しても、事態を正しく判断し、解決できる能力を身につける上で有効であると考え、そのような教育に積極的に取り組んで参りたいと思います。

甚だ微力ではございますが、本学発展のために鋭意努力し励んで参りたいと思いますので、ご支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



特命教授就任ごあいさつ

医学部公衆衛生学講座
特命教授 佐藤 哲志

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を実施するエコチル調査福島ユニットセンターの一員として、平成24年8月1日に着任いたしました。

エコチル調査は、化学物質などの環境要因が子どもの健康に与える影響を調べ、より安心・安全な子育て環境を作ることが目的として、全国で10万人を対象に、21年間にわたって実施する大規模な調査です。

福島県では、県立医大が実施機関（ユニットセンター）として、福島市など14市町村を調査対象地域として、平成23年1月から実施してきましたが、平成24年10月から調査対象地域が全県に拡大されました。

調査は、将来の子どもたちのために情報・データを収集し、解析を行っていくものですが、福島ユニットセンターでは、私の着任前から、調査に参加、ご協力いただいている妊婦さんたちの今の子育てを応援するための活動にも力を入れています。

このような活動は、単なる調査研究にとどまらず、今と未来の子どもたちや妊婦さんに寄り添い、福島で産み・育てる環境づくりに貢献する重要なことだと感じております。

微力ですが、私も少しでもお役に立つよう尽力してまいりますので、今後とも関係の皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。



御挨拶

医学部泌尿器科学講座
教授 小島 祥敬

私こと、平成24年5月1日付けで福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座の教授を拝命いたしました。謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成7年に名古屋市立大学を卒業し、17年間愛知県で医療に従事しました。専門領域は、臨床ではロボット支援下手術、腹腔鏡手術、尿路生殖器腫瘍、小児泌尿器科、研究では、下部尿路機能障害、生殖内分泌学、宇宙医学です。17年間名古屋で培ったわずかながらの経験をもとに、皆様のご期待にお応えできるよう頑張っていきたいと思っております。

臨床においては、これまで私が取り組んできました先進医療に取り組むべく、患者さんに優しい低侵襲な新規腹腔

鏡下手術の開発や、ロボット支援下手術を福島で開始したいと考えております。また、次世代を担う学生や研修医と真摯に直接向き合い、研修後も福島県で医療を行うことを望む、魅力的な医学教育を提供したいと思います。さらに、基礎研究にも積極的に取り組み、福島県から優れた研究を世界に発信し、広く人類社会全体の繁栄に寄与したいと考えております。

東日本大震災から1年半が経とうとしております。私が福島県に着任したのは何かのご縁と考え、今まさに世界が目にする福島県の大復興と発展に微力ながら貢献できるよう精進したいと考えております。若輩者で至らぬ点が多々あるかと存じますが、今後とも皆様の温かいご支援とご指導ご鞭撻を賜りますよう、紙面をお借りして心からお願い申し上げます。



特任教授就任ごあいさつ

がんプロフェッショナル養成プラン
特任教授・臨床腫瘍センター長

石田 卓

このたび、がんプロフェッショナル養成プラン特任教授を拝命いたしました石田です。紙面をお借りしましてごあいさつ申し上げます。

東北がんプロフェッショナル養成推進プランは文部科学省の補助金事業で、東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学協定による共同教育活動プランです。宮城、山形、福島および新潟の4県の地域のがん医療水準を向上させるために、放射線治療・化学療法・緩和医療・外科治療・歯科治療の専門医、およびがん看護専門看護師・がん専門薬剤師・医学物理士などのがん専門医療人を養成することを目的としております。昨年3月末で第一期の5年間のプランが終了し、今年4月から第二期が始まったところです。第一期の5年間では多くの方々の御協力をいただき、セミナーや研修への派遣、インターネットでの講義の配信など多くの事業を行うことができました。

福島県のがん医療においては、人材不足や治療施設の偏在など、多くの問題が存在しております。特に震災の後の人材の不足は深刻です。福島医大の臨床腫瘍センターを中心に、福島県における医療従事者の卒前・卒後教育を通してがん医療を担う人材を育成し、最終的には県内全地域におけるがん医療のレベルアップを図ることができる教育活動を行ってゆく予定です。目的達成への道は長く容易ではありませんが、今後も継続して努力する所存です。どうぞこれからもみなさまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



特命教授ごあいさつ

放射線医学県民健康管理センター
特命教授 **松井 史郎**

平成24年4月1日付で放射線医学県民健康管理センター広報部門長特命教授として着任いたしました。前職は「日経ビジネス」や「日経メディカル」など40数誌を発行する出版社、日経BP社で広告営業をしておりました。広告営業とは企業と消費者の間のニーズをくみ取り、コミュニケーション戦略を立案、実施をすることが主な仕事です。

医大でもその経験を活かし、外部と医大の間の効果的、効率的なコミュニケーション戦略を立案、展開するのが私のミッションと考えています。医大の「中」にいれば分かる先生方の貢献、研究や取り組みですが、多くの「外」にいる人にはその価値が理解されていない、伝わっていないのが現実ではないでしょうか。

県民健康管理センターが実施主体となり、医大を挙げて将来にわたり県民の皆様の健康を見守り続けることを宣言した今、医大自身の持続可能な成長戦略も欠かせません。そのためにも、医大の中にある多くの価値や思いを、それを最も必要とする層に伝え、多くのステークホルダーの共感を得、応援団が形成されることが必要と考えます。県民にとって医大が、より頼りになる身近な存在になるよう、そして、日本、世界の中で医大のブランド価値を少しでも最大化できるよう情報発信に取り組んでまいります。

とはいえ、営業から広報、企業から大学への転職で、分からないことだらけです。どうぞご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



特命教授就任ごあいさつ

放射線医学県民健康管理センター
特命教授 **柴田 義貞**

平成24年4月1日付けで特命教授を拝命し、放射線医学県民健康管理センター勤務を命じられました。出身地は神戸市です。

昭和41年3月に東京大学工学部計数工学科を卒業し、そのまま母校で教鞭を執り確率論、数理統計学の研究に勤んでいましたが、昨年初頭に急逝された開原成允先生（国際医療福祉大学院長・副学長、東京大学名誉教授）が主宰されていた勉強会に参加する中で、統計学の学徒として医学に貢献できないかという考えが強くなり、昭和57年9月

に国立水俣病研究センター疫学研究部に転出しました。しかし、当時は水俣病裁判が盛んな時期で、疫学調査は事実上不可能な状況でした。その後、縁あって昭和61年9月に（財）放射線影響研究所長崎研究所疫学・生物統計部に転出し、原爆被爆者の疫学調査に携わり、平成3年からは笹川チェルノブイリ医療協力事業に疫学担当者として参加し、平成10年12月には長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設の改組に伴い新設された放射線疫学分野に転出し、平成19年3月長崎大学を定年退職いたしました。

平成19年10月より、長崎大学グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」の特任教授として、本年3月末の任期満了まで、主に放射線リスクコミュニケーションの普及・啓発に携わっていました。放射線健康リスクを一般の人々に正しく理解していただくことの必要性を痛感して始めた事業ですが、終了の1年前、チェルノブイリ原発事故25年後に福島で同様の事故が発生したことに複雑な思いを禁じ得ません。

県民健康管理調査用データベースの開発に裨益できるころがあればと思い、4月から福島駅東口近くに居を構えました。市場に出回る地場産の魚介類が少ないのは残念ですが、その他の食材はすべて豊富で美味しく、日本酒、蕎麦も絶品で、福島での生活を二人で満喫しています。ご交誼のほどよろしくお願い申し上げます。



特命教授就任ごあいさつ

放射線医学県民健康管理センター
特命教授 **松井 秀幸**

平成24年7月10日特命教授を拝命しました松井秀幸と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。名前は、有名人に似ているので、比較的覚えやすいかと思えます。

前職は、内閣官房という広い意味の官邸で、パッケージ型インフラの海外展開と原子力災害専門家グループの担当をやっておりましたので、福島原発事故については相当な関心を持って見ておりました。このほか、過去に経験した仕事としては、財務省ではIMFのカウンターパートとなる部署、為替介入を行う部署、ODAを扱う部署、国際資本取引をモニターする部署などいわゆる国際畑を歩きました。財務省以外では、国税の仕事も経験しております。また、海外に赴任し、米国ワシントンDCの世界銀行に出向した経験、日本政府観光局に出向しニューヨーク事務所で日本への観光を誘致する仕事も経験しております。また、経験した珍しい仕事としては、財務省が日銀の金庫に第二次世界大戦のころから預けっぱなしでいた、明治から昭和初期までに日本で発行された金貨を売却した仕事が

あります。当時、国有財産を売る場合、業者を集めて入札で売却するのが常識でしたが、一般人も対象にインターネットでのものを含めてオークション方式で売却しました。額面では全部足しても数十万円の金貨を60億円ぐらいで売却することができました。

今回、福島県立医大の県民健康管理センターで国際連携担当として働くことになりました。福島原発災害後の健康問題については、県民健康管理調査による外部被ばくの値や県及び各市町村が行っているホールボディカウンターによる内部被ばくの測定値を見ると、多くの方々が心配していた状況とは異なり、意外と低い数字となっていると思われた人が多いと思います。これは、かつての広島、長崎、チェルノブイリの経験を先人たちがきちんと調査・研究を行ってきていてどうすることが正しい対応かが整理されていたからこそ達成できたことではないでしょうか（但し、日本の対応が完璧だったとまでは思いませんが）。原発を持っている国は多くあり、今回の福島と類似することが将来起こらないとは言えません。県民健康管理調査の目的の第一は、もちろん、県民の健康を将来に渡って見守ることですが、それ以外に、今回の原発事故についてあらゆる面からよく調査・研究しそのファクトや研究成果を過大でも過小でもなく正確に世界に伝えていくということも重要なことだと思っています。こうした人の健康に関して原発事故のフォローアップの中心となるのは福島県立医大であり、その一部を担当させていただけるのは、私としては人生の喜びです。

何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。



会津医療センター準備室長就任 ごあいさつ

会津医療センター準備室

室長 高久史磨

私の記憶が正しければ本年の1月に東京で行われた東京大学内科の合同新年宴会で久しぶりにお会いした福島県立医科大学神経内科宇川義一教授から、私が自治医大を退任した後「会津医療センター準備室長」になる可能性について個人的な打診を受けたのがこの話の始まりであった。宇川教授のお話では県立の会津総合病院と喜多方病院とが合併して福島医科大学の会津医療センターになるのでその準備室の室長という事であった。私はその場で4月以降その話を喜んでお引き受けしたいとお答えした。

私が即答した理由として3つの事があげられる。その理由の1つは私の父親が会津坂下の出身であり、私自身は住んだ事はないが、会津という名前に愛着があった事、もう1つの理由は県立会津総合病院の鈴木啓二病院長が自治医

科大学の第1期生であり、学生時代から彼の能力の高さ、人柄の良さを高く買っていた事、更にもう1つの、しかも最大の理由は地震・津波と原子力発電所の2つの災難に苦しんでいる福島県の復興のために少しでもお役に立てればと震災以後ずっと考えていた事の3つである。

4月に大学にお伺いして菊地臣一理事長から正式の辞令をいただき、その後会津総合病院に行き鈴木病院長を始めとするスタッフの方々とお会いした。その後毎月1回光が丘の大学と会津総合病院にお伺いし、会津総合病院では午後会津総合病院と喜多方病院の教授の方々並びに県の方々の会議に出席して院長並びにスタッフの方々から新しい福島県立医科大学会津医療センターの開設に伴う色々な問題について報告を受け議論をしているのが現状である。

会津医療センターは会津若松市の中心から離れた所にあり、地理的には不利となるが、福島県立医大の附属のセンターとなる事、新しく建設される病院である事などの利点を十分に生かして、福島県の医療の発展に貢献したいと考えている。福島県立医科大学の皆様方の御援助をお願いして就任のごあいさつの締めくくりとしたい。



医監就任のご挨拶

会津医療センター準備室

医鑑 鶴谷善夫

福島県立医科大学会津医療センター準備室循環器内科教授として平成24年4月に着任いたしました。

伊達市の出身で、昭和60年に自治医科大学を卒業し、福島県内の主に会津地域で内科医・総合医として僻地医療に貢献いたしました。義務年限明け後は自治医科大学本学、同付属大宮（現さいたま）医療センターにて循環器内科を再研修し、循環器内科医として勤務しておりました。この度の会津医療センターの開設に伴い、再び福島県の医療の発展のために微力ながらもお役に立ちたいと決心し拝命いたしました。

会津医療センターにおいては、近隣の医療機関との連携をとりながら循環器内科全般の診療レベルの向上に努め、地域住民の健康寿命を延ばすべく努力して参りたいと考えております。また、設立の理念に述べられていますように、臨床疫学研究にも取り組み、会津大学との医工連携をはかり、会津から日本全国へ様々な知見を発信して参りたいと思います。それにより福島県が元気であることを知っていただきたいと考えております。また、今後の福島県の医療を担う次世代の医師の教育も重要事項でありますので、これも注力して参ります。

東日本大震災後の復興に関わる重大な時期に大役をお引

き受けしましたことに、身の引き締まる思いであります。いまだ若輩でございますので、関係各位の皆様には御指導、ご鞭撻の程を切にお願い申し上げます。

諸規程改正

■ 平成24年2月から平成24年7月までの 主な諸規程の制定改廃関係

○「公立大学法人福島県立医科大学事務決裁規程」の一部改正

(平成24年2月1日制定・平成24年2月1日施行)

教員の外国旅行命令を各学部長等の専決事項とする改正を行いました。

○「福島県立医科大学附属病院医師主導治験実施要綱」の制定

(平成24年2月1日制定・平成24年2月1日施行)

本院での医師主導治験の適正実施を図るため、要綱を制定しました。

○「福島県立医科大学学則」の一部改正

(平成24年2月10日制定・平成24年4月1日施行)

平成24年度から26年度の看護学部の入学定員を80名から84名へ、編入学定員を10名から6名としました。

○「公立大学法人福島県立医科大学先進的臨床研究支援事業に関する要綱」の制定

(平成24年2月14日制定・平成24年2月14日施行)

本学における先進的臨床研究を推進することにより、本学附属病院における先進医療及び高度医療の促進を図るため、先進医療の届出又は高度医療の申請を行うために実施する臨床研究に対する助成制度を設け、この制度に関する要綱を制定しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学障がい学生修学支援規程」の制定

(平成24年2月20日制定・平成24年4月1日施行)

本学において、障がいを持った学生が十分な教育を受けられるようにするため、修学等支援に係る事項を定めました。

○「公立大学法人福島県立医科大学客員教授等の称号付与規程」の制定

(平成24年2月28日制定・平成24年2月28日施行)

本学の教育、研究及び医療分野に関し、卓越した識見を有する国内外の有識者に客員教授等の称号を付与する制度を創設し、これに関する規定を制定しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学契約細則」の一部改正

(平成24年2月28日制定・平成24年2月28日施行)

2人以上の見積書の徴取について、「予定価格10万円

以上」に引き下げる改正を行いました。

○「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正

(平成24年3月21日制定・平成24年4月1日施行)

住居手当の支給を可能とする改正を行いました。

○「公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター準備室長就業規則」の制定

(平成24年3月23日制定・平成24年3月23日施行)

平成24年4月1日付けで就任された会津医療センター準備室長の就業規則を新たに制定しました。

○「福島県立医科大学附属病院の副病院長に関する規程」の一部改正

(平成24年3月30日制定・平成24年4月1日施行)

副病院長に経営担当、教育研修担当をそれぞれ1名追加し、現行の4名から6名体制へすることに伴い、所要の改正を行いました。

○「公立大学法人福島県立医科大学プロジェクト教員等給与規程」の一部改正

(平成24年3月30日制定・平成24年4月1日施行)

会津医療センター準備室任期付教員に対し、年俸制を適用するため、所要の改正を行いました。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員特殊勤務手当細則」の一部改正

(平成24年3月30日制定・平成24年4月1日施行)

避難指示解除準備区域、居住制限区域及び帰還困難区域の設定に伴い、これら避難指示区域で行う作業についても災害応急作業等特殊勤務手当の支給対象とする改正をしました。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正

(平成24年3月30日制定・平成24年4月1日施行)

通勤手当額の引き上げを行いました。

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

平成24年度組織改編に伴う理事の担当、法人及び大学の内部組織の名称、附属施設の組織名称について、所要の改正を行いました。

○「福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター規程」の一部改正

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

新たに設置された広報部門、国際連携部門について、業務内容等を追加しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学地域医療支援本部要綱」の制定

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

法人内部組織として、地域医療支援本部が設置された事に伴い、業務内容等必要な項目について規定を制定しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学復興事業推進本部要綱」の制定

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

法人内部組織として、復興事業推進本部が設置された事に伴い、業務内容等必要な項目について規定を制定しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学広報戦略室要綱」の制定

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

法人内部組織として、広報戦略室が設置された事に伴い、業務内容等必要な項目について規定を制定しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学産学官連携推進本部要綱」の制定

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

○「公立大学法人福島県立医科大学研究推進戦略室要綱」の一部改正

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

○「公立大学法人福島県立医科大学知的財産管理オフィス要綱」の一部改正

(平成24年4月1日制定・平成24年4月1日施行)

研究活動の促進・拡大や質の向上、産学官連携の更なる推進を図るため、組織を再編し、法人内部組織として設置された研究推進戦略室、産学官連携推進本部及び知的財産管理オフィスについての規定の制定、改正を行いました。

○「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正

(平成24年5月7日制定・平成24年5月7日施行)

平成24年度の組織改編に伴う所要の改正を行いました。

○「福島県立医科大学附属病院先進医療審議委員会設置要綱」の一部改正

(平成24年5月9日制定・平成24年5月9日施行)

今後増加が予想される先進医療の届出に係る院内審査を機動的に実施できるよう、所掌事項を明確にし、現行の委員会構成員を見直しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正

(平成24年6月1日制定・平成24年6月1日施行)

「感染制御・臨床検査医学講座」を「感染制御医学講座」に変更、附属病院の内部組織として「放射線災害医療センター」を新設、法人組織である放射線医学県民健康管理センターの疫学部門と臨床部門を再編、拡充。会津医療センター準備室に準備室副室長を新設しました。

○「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正

(平成24年6月1日制定・平成24年6月1日施行)

附属病院に設置された放射線災害医療センターに関する所要の改正を行いました。

○「福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター規程」の一部改正

(平成24年6月1日制定・平成24年6月1日施行)

基本調査部門、甲状腺検査部門、健康診査部門、こころの健康度・生活習慣調査部門、妊産婦調査部門を新たに設置したことから、各部門の業務内容を明記し、部門長会議の項目を追加しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学理事長選考規程」の一部改正

(平成24年6月12日制定・平成24年6月12日施行)

平成24年度の組織改編に伴い、意向投票の有資格者の範囲を変更しました。

○「公立大学法人福島県立医科大学寄附講座に関する規程」の一部改正

(平成24年6月27日制定・平成24年6月27日施行)

大学において寄附講座の内容を変更する場合の寄附者の意向確認、軽微な変更に係る手続について定めました。

役員会・経営審議会・ 教育研究審議会・医学部 教授会・看護学部教授会

■ 役員会

【平成24年2月29日 第11回役員会】

・寄附講座の設置

次のとおり、新たな寄附講座を設置することが承認された。

(名称)

周産期・小児地域医療支援講座

(設置期間)

平成24年4月～平成27年3月(3年間)

(研究テーマ)

周産期・小児地域医療支援システムの構築と地域密着型後期研修プログラムの研究及び開発

【平成24年3月23日 第12回役員会】

・寄附講座の設置

次のとおり、新たな寄附講座を設置することが承認された。

(名称)

災害医療支援講座

(設置期間)

平成24年4月～平成28年3月(4年間)

(研究テーマ)

災害医療に関する研究及び被災地の医療ニーズの研究

■ 経営審議会

【平成24年3月13日 第4回経営審議会】

- 平成24年度年度計画（案）について
平成24年度の年度計画（案）について諮られ承認された。
- 平成24年度法人当初予算及び収支計画（案）について
平成24年度の法人当初予算及び収支計画（案）について諮られ承認された。

【平成24年6月12日 第1回経営審議会】

- 公立大学法人福島県立医科大学理事長選考会議委員の選出について
次のとおり選出された。
 - 竹之下誠一委員（副理事長）
 - 棟方 充委員（理事兼附属病院長）
 - 前原 和平委員（外部委員）
 なお、補充委員として、藤島初男委員（理事兼事務局長）が指名された。
- 平成23事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績について
平成23事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績について諮られ承認された。
- 平成23年度法人決算（案）について
平成23年度法人決算（案）について諮られ承認された。

■ 教育研究審議会

【平成24年3月13日 第4回教育研究審議会】

- 名誉教授称号授与の選考について
本年3月31日付けで退任される丹羽真一教授、清水研明教授に対し、名誉教授称号の授与が決定された。なお、称号の授与日については、本年の4月1日付けとされた。
- 平成24年度年度計画（案）について
平成24年度計画（案）が諮られ承認された。

【平成24年6月12日 第1回教育研究審議会】

- 公立大学法人福島県立医科大学理事長選考会議委員の選出について
委員の任期満了に伴い現在欠員となっている理事長選考会議委員の選出が行われ、投票の結果、次のとおり委員が選出された。
 - 阿部正文委員（副学長）
 - 大戸 齊委員（医学部長）
 - 鈴木順造委員（看護学部長）
 なお、補充委員として、大平弘正委員（附属学術情報センター長）が指名された。

- 平成23事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績について
平成23事業年度及び中期目標期間に係る業務の実績について審議され、承認された。

■ 医学部教授会

【平成24年3月21日 定例教授会】

- 平成24年度医学部教務委員会委員の選任について
次のとおり選出された。
 - 八木沼教授（神経解剖・発生学講座）
 - 挾間教授（細胞統合生理学講座）
 - 橋本教授（生化学講座）
 - 坂井教授（放射線生命科学講座）
 - 竹石教授（循環器・血液内科学講座）
 - 中山教授（腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座）
 - 鈴木(弘)教授（臓器再生外科学講座）
 - 田勢教授（救急医療学講座）
 - 葛西教授（地域・家庭医療学講座）
 - 松岡教授（自然科学講座）
 以上10名の任期は、平成24年4月1日から平成26年3月末まで
 - 紺野教授（整形外科学講座）
 - 藤森教授（産科婦人科学講座）
 - 志村教授（自然科学講座）
 以上3名の任期は、平成24年4月1日から平成25年3月末まで
- 平成24年度医学部入学試験委員会委員の選任について
次のとおり選出された。
 - 坂井教授（放射線生命科学講座）
 - 本間教授（生体物質研究部門）
 - 小林(和)教授（生体機能研究部門）
 - 矢吹教授（整形外科学講座）
 - 志村教授（自然科学講座）
 - 松岡教授（自然科学講座）
 以上6名の任期は、平成24年4月1日から平成26年3月末まで
 - 葛西教授（地域・家庭医療学講座）
 - 小川教授（循環器・血液内科学講座）
 - 中山教授（腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座）
 - 宇川教授（神経内科学講座）
 - 鈴木(真)教授（器官制御外科学講座）
 - 齋藤教授（脳神経外科学講座）
 - 金光教授（感染制御医学講座）
 - 小林(恒)教授（自然科学講座）
 - 岡田教授（自然科学講座）
 以上9名の任期は、平成24年4月1日から平成25年3月末まで

【平成24年4月18日 定例教授会】

- 看護学部教務委員の医学部教務委員就任について
看護学部長より推薦があった総合科学部門・林教授の
医学部教務委員への就任について諮られ承認された。

■ 看護学部教授会

【平成24年3月19日 定例教授会】

- 福島県立医科大学看護学部学務委員会規程の改正について
医学部教務委員会と看護学部学務委員会の相互乗り入れに伴い、組織構成員に医学部教務委員会から1名追加する案が審議され、承認された。

【平成24年4月17日 定例教授会】

- 附属学術情報センター運営委員会委員の推薦について
次のとおり推薦され、その後、学長から任命された。
本多教授（生命科学部門）
林 教授（総合科学部門）
高瀬准教授（地域・在宅看護学部門）
川島講師（基礎看護学部門）
任期は、平成26年3月31日まで

【平成24年6月26日 定例教授会】

- 倫理委員会の推薦について
次のとおり推薦され、その後、学長から任命された。
結城教授（地域・在宅看護学部門）
太田教授（母性看護学・助産学部門）
任期は、平成26年7月31日まで

雑 報

■ 寄附講座の開設について

本学では次のとおり、寄附講座を開設しました。

- 名 称
腫瘍生体エレクトロニクス講座
- 設置期間
平成25年1月1日～平成27年12月31日（3年間）
- 寄附者名
日本全薬工業株式会社
小林製薬株式会社
テラ株式会社
株式会社クレハ
- 設置場所
福島県福島市光が丘1番地
(公立大学法人 福島県立医科大学内)

- 研究体制
講座主任：竹之下誠一
教授：柴田昌彦
特任教授：志村龍男
- 研究テーマ
がん患者の免疫化学療法及び関連する生体計測に関する研究
- 名 称
不整脈先端治療学講座
- 設置期間
平成25年1月1日～平成27年12月31日（3年間）
- 寄附者名
セント・ジュード・メディカル株式会社
バイオトロニックジャパン株式会社
日本ライフライン株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
- 設置場所
福島県福島市光が丘1番地
(公立大学法人 福島県立医科大学内)
- 研究体制
講座主任：竹石恭知
教授：青沼和隆
特任教授：鈴木均
- 研究テーマ
不整脈の最先端診療体制の構築
- 名 称
災害医療支援講座
- 設置期間
平成24年4月1日～平成28年3月31日（4年間）
- 寄附者名
株式会社恒和薬品
株式会社東芝
株式会社東邦銀行
株式会社福島民報社
財団法人福島民報厚生文化事業団
医療法人社団裕和会（長尾クリニック）
Johnson & Johnson
協和発酵キリン株式会社
- 設置場所
福島県福島市光が丘1番地
(公立大学法人 福島県立医科大学内)
- 研究体制
講座主任：紺野慎一
教授：小柴貴明
特任教授：清水昭、久保肇
准教授：松山純子、小鷹昌明
特任准教授：西村哲郎

講師（特任准教授）：久村正樹

特任助教：赤津賢彦

助手（特任助教）：堀有伸

○研究テーマ

災害医療に関する研究、被災地の医療ニーズの研究

○名称

周産期・小児地域医療支援講座

○設置期間

平成24年4月1日～平成27年3月31日（3年間）

○寄附者名

須賀川市

○設置場所

福島県福島市光が丘1番地
（公立大学法人 福島県立医科大学内）

○研究体制

講座主任：細矢光亮

教授：藤森敬也、桃井伸緒

講師：菅沼亮太

○研究テーマ

周産期・小児医療システムの構築と地域密着型後期
研修プログラムの研究及び開発

○名称

慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座

○設置期間

平成24年4月1日～平成27年3月31日（3年間）

○寄附者名

MSD 株式会社

中外製薬株式会社

大日本住友製薬株式会社

武田薬品工業株式会社

帝人ファーマ株式会社

アストラゼネカ株式会社

○設置場所

福島県福島市光が丘1番地
（公立大学法人 福島県立医科大学内）

○研究体制

講座主任：渡辺毅

教授：中山昌明

准教授：旭浩一

特命准教授：寺脇博之

助教：田中健一

○研究テーマ

慢性腎臓病（CKD）の集約的治療法の開発と地域医療連携システムの構築

■ 学生の部活動報告

新極真空手部

医学部3年 百武佳晃

福島県立医科大学3年生、現在副将を務めている百武佳晃です。今回は、空手部について紹介させていただきたいと思います。まず、「空手部」ということで皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。筋骨隆々の男達が道場で黙々と練習している様子や、怖くて厳しい先輩に喝を入れられたりしている様子でしょうか。僕自身も、入学時に空手部を見学するまでは上記のような印象を持っていました。しかし、僕たちの空手部は違います。まず第一に部員の半数以上は女性です。そして、総勢54名の大所帯です。また、部の雰囲気も、先輩後輩が分け隔てなく和気あいあいとしたもので、毎回部活動に行くのが楽しみという声を部員の皆からよく聞きます。このようなメンバーで週に2回、医大体育館の道場にて練習を行っています。練習内容は、主将を中心にミット打ちや組み手を行い、入学時にはパンチなんかしたこともないと言う女性も、1年後には板を割るようになりまして。そして、秋には新極真会の道場と協力し、様々な大学の生徒を対象とした学生大会を主催しており、医大からも多くの部員が出場し、素晴らしい成績を残しています。ここまで見ると、結局空手ばかりやっているじゃないかと思ってしまうのですが、空手以外にも数々のイベントを行い部員全員で大学生活を満喫しております。

最後になりましたが、顧問の上田和毅先生をはじめとした、たくさんのOB・OGの方々、そして福島県立医科大学の皆さまのご協力とご支援のおかげで充実した部活動を行うことができております。この場をお借りして御礼を述べさせていただきます。今後も部員一同、空手部の更なる発展のため努力していきます。最後まで読んで頂き、ありがとうございました。



■ チェロの寄贈について

平成24年9月に本学第一期生渡部龍一様よりチェロの寄贈がありました。受領の際、本学管弦楽団の団員が演奏を行い、そのチェロのすばらしい音色に一同感動いたしました。誠にありがとうございました。



編集発行 公立大学法人福島県立医科大学
事務局企画財務課
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024 (547) 1013 FAX 024 (547) 1991